

「演劇を観たことがない」

そんなあなたにこそ
観てほしい。

みんなを笑顔にする劇団 「有門正太郎プレゼンツ」が北九州からやってくる!

演劇の魅力は、人々にあり!

2019年2月、演出家として19人の市民と、演劇×自分史公演「旅旅」(ふたたび)を作り上げた有門正太郎さん。稽古を見て驚いたのは、出演者たちが役作りをほとんどしないのに、その人そのものが魅力的だったこと。一人ひとりを輝かせる、有門さんの秘密はどこにあるのでしょうか?

「僕は人が好きなんですよね。だから舞台上でも、どうしたら、この人のありのままの面白さを見せられるかな、って考えるんです」

そんな有門さんが率いる劇団「有門正太郎プレゼンツ」(通称アリプレ)が、春日井に初上陸します!となれば、普通の演劇とは、一味違うはず。

「アリプレは、すごい舞台技術を駆使するのではなく、客席に唾の飛ぶ距離で、裸になった俳優を見せたい!と思って立ち上げた劇団です。市民と作るときと、やりたいことは同じ。自分をコントロールできなくなった時に、人って面白くなるから(笑)、上手に演じようとする俳優を必死にさせて、面白い状態に持っていく。これが腕の見せ所です」

全方位に笑いを届ける、 それがアリプレ流!

アリプレは、立ち上げ時から一貫して、笑いを追求しています。

「僕は芸人になりましたかったし、ドリフが大好き。ちっちゃな子からおじいちゃん、おばあちゃんまで、楽しめるお芝居があるといいなと思ったんです」

撮影:藤本彦

春日井で上演するのは、誰もが知る、ロミオとジュリエットですが…。

「笑いの要素がめっちゃ入るので、みんながイメージする古典とはかなり違うと思います。最近うちの劇団に入った若い子が、好きな人のために死ぬって、自分の経験値ではまだ理解できない」と言っていて。これはいいテーマだなと思って、僕は死にますにも、死にませんにもとれる。死にますんをタイトルにしました。笑って笑って笑い疲れて、最後にちょっと考えちゃう、そんな作品になるといいな」

みんなの隣にある作品を目指して

春日井でたくさん市民と関わってきた有門さんからは、熱い春日井愛を感じます。

「春日井って、北九州と似てると思うんです。人との距離感もそう。最初は人見知りだけど、仲良くなるとガンガン積極的になる感じもね。そして名古屋?いや、隣の春日井市で…。福岡?いや、隣の北九州市で…。っていう位置関係にもシンパシーを感じるなあ(笑)。僕は、子どもから年配の方まで、色々な人とワークシヨップをやってきたから、自分の作品を作るときも、今まで出会った人たちに、この作品を届けたいって思うんです。だからこそ、みんなに地続きで、それでいて質の高い作品を目指したい。お芝居を観慣れていない人が観て、面白かった。お腹がよじれた。これだったらまた観たい!そう言ってくれたら嬉しいです」

アリプレを立ち上げた2人。
有門正太郎さん(左)と、
プロデューサーの加賀田浩二さん(右)



有門正太郎プレゼンツ
アリプレ版
ロミオとジュリエット
僕は死にますん
5/10(金) 19:30~
5/11(土) 12:30~15:30~
@春日井市民会館(舞台上)

詳細情報は、裏表紙へ

Ticket Guide



撮影:藤本彦